

第9講 家族変動 (2): 近代家族

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 近代の家族変動と現代の家族の特徴

1 前回課題について

あまり言及されていなかった要因

- 寿命ののびとライフサイクル (ライフサイクルの「ゴムひも」理論)
- 婚姻外性関係の禁止と生殖革命 (性と生殖の分離)
- 規模の利益/分業の利益 (→家族の経済学)

「要因」の候補は多岐にわたる。当時の時代状況についての知識を駆使して想像してみること。また、原因と結果の間にあるメカニズムについて、筋の通った説明を試みること。大きく分けると、前近代から引き継いだ規範や制度 (イエや同族) によるものと、近代になってできた新しい家族制度 (「近代家族」と呼ばれる) によるものがある (教科書第 III 部)。

2 前近代から近代へ

近代化 (modernization)

- 政治面の変化: 国民国家; 民主化; 福祉国家
- 経済面の変化: 分業と市場経済の発達; 産業化; 雇用労働者化
- 生活様式の変化: 合理化; 都市化; 学校教育; 家族の機能縮小

近代化する社会における前近代的セクターと近代的セクターの併存 (二重システム = dual system)

- 都市 vs. 村落
- 雇用者 vs. 家族経営的自営業

近代化が進展する途上を「前期近代」、社会のほぼ全体が近代化してしまったあとを「後期近代」と呼んで区別することができる。

3 「近代家族」とは

3.1 家族の機能縮小

近代以前の社会において家族が果たしてきた主要な社会的機能 (social function) としてはつぎのようなものがある。

- 家業の経営 ▼
- 扶養と safety net ▼
- 生活の協同 (居住・家計・家事)
- 生殖
- 子供の教育 ▼ と社会化 (socialization)
- 親密な人間関係

近代化とともに、家族の機能は少なくなってきた (▼印のものが縮小)。この機能縮小の過程は、日本社会では、20世紀はじめごろから、都市部のサラリーマン層で進展した (教科書 p. 30)。日本社会全体にひろまるのは高度経済成長期 (1970年代ごろまでにほぼいきたる)。

3.2 近代家族

「近代家族」(modern family) の特徴 (教科書 p. 22) について、具体例をあげながら考察してみよう。

- 前近代ではどうだったか?
- 民法での夫婦、親子、その他の親族関係のあつかいと対比

4 近代家族と家族問題

近代家族は、近代化に適応してできた合理性を持つ家族制度である。

- 産業化した社会のなかで「労働力の再生産」を担う集団
- 初期段階の子供の社会化
- 家族を単位とした生活保障システム

他方、この制度にはさまざまな問題もある。「家族問題」とされる現象のほとんどは、近代家族の特徴に関係している

- 市民社会の原理 (自由と平等) との齟齬: 特に性別役割分業と男女平等の関係 → 女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法
- 情緒的親密さと暴力のコントロール: ドメスティック・バイオレンスと虐待の問題
- 人口の再生産: 未婚化と少子化

5 今後の授業予定

- 7/5 までは通常通り授業
- 7/12 は休講 (その代わり、レポートについて相談受付)
- 7/19 レポート内容について意見交換
- 7/26 レポート提出、授業時間内課題再提出
- 8月上旬 レポートおよび課題返却
- 8/16 レポート改訂版提出期限 (任意)

文献

落合恵美子 (2004) 『21世紀家族へ: 家族の戦後体制の見かた・超えかた』(第3版) 有斐閣.

山田昌弘 (1994) 『近代家族のゆくえ: 家族と愛情のパラドックス』新曜社.